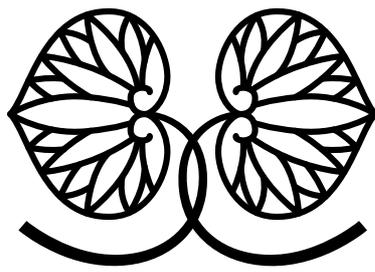


南葵徳川 音楽塾

令和5年度(2023年度)開講

南葵音楽文庫 閲覧室からひろがる学びの「和」

徳川頼貞…南葵音楽図書館、館長。彼がその人生を賭して蒐集した重厚な楽譜や書物が壁面を埋め、彼の理想と熱意が世紀を越えて伝わる《閲覧室》。この小さく濃密な空間に集い、南葵音楽文庫が所蔵する[資料について/資料をもとに/資料からひろげて][音楽を/貴重なコレクションを/南葵徳川の人と歴史を]さまざまな視点や立場から、知り学ぶ塾です。



南葵徳川 音楽塾

令和5年度(2023年度)前期

南葵音楽文庫閲覧室にて
(和歌山県立図書館1階奥)

受講料無料

- *予告なく内容・講師が変更になる場合があります。
- *閲覧室で使用できる筆記用具は備付け鉛筆のみ。
- *閲覧室入室に際しては所定用紙に記載のうえ、入室カードを携行してください。

お問合せ:073-436-9520

【セミナー申込方法】

《メールでのお申込み》

題名に「南葵徳川音楽塾セミナー参加希望」と書き、本文中に以下を明記のうえ、

- ①希望日(6月2日/6月3日/どちらでもよい)
- ②申込者氏名

event@lib.wakayama-c.ed.jp

までご連絡ください。

*返信メールが受信できるよう設定して下さい。

《来館/FAX/往復ハガキでのお申し込み》

「南葵徳川音楽塾セミナー参加希望」と書き、以下を明記のうえ、それぞれの宛先までお送りください。

- ①希望日(6月2日/6月3日/どちらでもよい)
- ②申込者氏名
- ③郵便番号、住所
- ④電話番号/FAX番号(追加情報送付先)
- ⑤[任意]メールアドレス

[FAX] 073-436-9511 (和歌山県立図書館)

[郵送] 〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38
和歌山県立図書館サービス課

★受付期間終了後に受講者番号、および受講のための追加情報をお送りします。

★申込後に受講ができなくなった場合は、直ちにその旨連絡があります。

レクチャー

申込不要 15名程度まで
当日10時45分から入室。

5月28日(日) 11:00-11:45

開塾にあたり/徳川頼貞の「音楽を聴く喜び」 美山良夫ほか

徳川頼貞は晩年に「音楽を聴く喜び」という随筆を書いています。西洋音楽の普及に情熱を傾け、多くの音楽家と交流し、沢山の音楽を聴いてきた頼貞が、その生涯で特に「心から音楽を聴く喜びを味わった」と述べた至福の体験とは、どのようなものだったのでしょうか。頼貞の文章を読み、彼が聴いた演奏を録音で聴きます。(みやまよしお・慶應義塾大学名誉教授)

6月17日(土) 11:00-11:45

「鋼鉄の腕」が奏でる抒情～プロコフィエフを聴く 近藤秀樹

徳川頼貞とプロコフィエフとの交流については南葵音楽文庫アカデミー等で何度か取り上げてきましたが、プロコフィエフはどんな音楽を書く人だったのでしょうか？ うるさいゲンダイオンガク？ いえいえ、実はもっと複雑で微妙な音楽なのです。来日前後に書かれた作品を中心に、プロコフィエフの音楽を聴きます。(こんどうひでき・大阪教育大学講師)

7月8日(土) 11:00-11:45

南葵音楽図書館の蔵書形成(その1) 林淑姫

日本の近代音楽史を彩る南葵音楽図書館の歩みを蔵書形成の観点から検討します。南葵蔵書の形成過程は大きくは2つの時期に分かれます。第1期は徳川頼貞が英国留学から帰国した1916年から1923年頃までの南葵文庫時代で、カミングス文庫を除く一般蔵書の主たる関心は楽譜の収集にありました。楽譜蔵書には同時代の音楽への強い関心が示されています。第2期は南葵文庫崩壊後の南葵音楽図書館時代で音楽書の充実に熱意を傾けた時期です。音楽書には稀覯書が多く含まれ学術性ととも歴史性を強く感じさせます。今回は第1期の楽譜収集における同時代性に着目し、音楽を聴きながら資料を紹介いたします。(りんしゅくき・旧日本近代音楽館主任司書)

8月6日(日) 11:00-11:45

B.マルチェロ《詩と音楽の靈感》～カミングス文庫から隠れた名曲を聴く 佐々木勉

カミングス文庫から、バロック時代にヴェネツィアを中心に活躍したベネデット・マルチェロがジロラモ・ジュスティニアニーニによる詩編の翻案に作曲した《音楽と詩の靈感》(1724～26年刊、ヴェネツィア、全8巻)を紹介いたします。資料や作品について解説し、実際に音楽を聴きましょう。(ささきつとむ・名古屋音楽大学元教授)

9月10日(日) 11:00-11:45

聖セシリアの祝日のための頌歌～H.パーセルと宮廷行事 佐々木勉

王政復古後のイングランド宮廷には、音楽の守護聖人、聖セシリアを讃えてその祝日に頌歌を演奏する習慣がありました。カミングス文庫は、1683年の同祝日のためにヘンリー・パーセルが作曲した頌歌《来たれ、すべての喜びよ》の楽譜(1684年刊)を収蔵しています。作品の解説を交えながら資料を紹介いたします。

Seminar

要申込 各日10名以内

受付期間:5月9日～19日(先着順)

6月2日(金) 13:30-15:00

6月3日(土) 10:00-11:30

歌詞をきわめる ----- 1:《夏は来ぬ》と《荒城の月》 美山良夫

南葵音楽文庫は、パーセルやシューベルトらによる名歌曲を収めた貴重な初版楽譜を所蔵しています。音楽のみならず詩も優れた作品が少なくありません。その理解への手始めとして、よく知られた歌の歌詞をとりあげます。徳川頼貞は、本居長世に師事、小山作之助の遺した書籍等を南葵音楽図書館に受け入れました。彼が作曲した《夏は来ぬ》と、弟子であった滝廉太郎《荒城の月》を例に、歌詞の正鵠を射る読解を、その方法を学ぶ演習とします。

参加には:作者である佐々木信綱、土井晩翠についてのひととおりの紹介(人物、業績、作品など)と両曲の歌詞を読み、歌詞のプリントを当日各自持参。レジュメ等が事前に配布/送信される場合があります。